

平成 26 年度温泉地学研究所研究成果発表会プログラム

日時：平成 26 年 6 月 20 日（金） 13:00～16:00（12:30 受付開始）

会場：小田原市民会館 本館 3 階小ホール

■開会挨拶

13:00-13:05 温泉地学研究所長 里村幹夫

■口頭発表（括弧内は発表者）

(1) 13:05-13:25 神奈川県及びその周辺地域における 2013（平成 25）年の地震活動（本多 亮）

当所で行っている地震観測等の観測結果をもとに、2013 年 1 月～12 月までの神奈川県及びその周辺地域の地震活動について報告します。

(2) 13:25-13:45 地震波データから探る箱根火山の地下構造（行竹洋平）

地震波データと速度トモグラフィ法という手法を用いて箱根火山の地下の構造について推定しました。その結果を紹介するとともに、箱根火山のマグマ溜りの場所や箱根カルデラの浅い場所で起きる群発地震の発生メカニズムについての考察を述べます。

(3) 13:45-14:00 ポスター発表概要説明（原田昌武、道家涼介、小田原啓、金 幸隆、菊川城司）

会場内に展示する研究発表ポスターの概要について説明します。

14:00-14:20 休憩（ポスター発表）

(4) 14:20-14:40 噴気ガスの組成変化から箱根火山の活動を予測できるか（代田 寧）

2013 年 1 月から活発な群発地震活動が発生したことに伴い、測定頻度を高めて噴気ガスの調査を行いました。その結果、噴気ガス中の二酸化炭素と硫化水素の比が火山活動の消長に応じて変化することがわかり、噴気ガス組成の連続観測が箱根火山の活動予測に有効であると考えられました。

(5) 14:40-15:00 掘削によって明らかになった鎌倉・逗子の平野発達史（萬年一剛）

平成 25 年度に実施した津波堆積物調査の掘削で得られた結果から読み取ることが出来る鎌倉と逗子の地形発達史について紹介します。

15:00-15:20 休憩（ポスター発表）

(6) 15:20-15:40 足柄平野自噴井の湧出機構と保全について（宮下雄次）

足柄平野の中部～下部には沢山の自噴井があり、県内最大の自噴地域として知られています。これまでの調査で、自噴井からの湧水量は平野全体で 1 日に約 5 万トンあることが分かりました。足柄平野自噴域は、1980 年代末まで減少し、その後は横ばいの傾向にあります。この発表では、足柄平野自噴井の湧出機構と、地下水の保全にむけた研究について紹介します。

(7) 15:40-16:00 神奈川県における温泉付随メタンガスの状況と成因について (代田 寧)

神奈川県における温泉付随メタンガスの湧出状況について調査した結果、平野部の大深度温泉においては県東部から県西部までの広範囲にわたって高濃度のメタンガスを含むことなどがわかりました。また、炭素同位体比の測定結果などから、メタンガスは主に微生物起源であることがわかりました。

■ポスター展示

(1) 箱根火山で発生した群発地震活動の特徴とその分類 (原田昌武)

近年の箱根火山では、比較的規模の大きな群発地震が6回(2001年、2006年、2008年、2009年、2011年、2013年)発生しました。これらの群発地震活動について、地震活動の特徴を比較した結果、いくつかの共通点や違いが発見されましたので報告します。

(2) GPSデータによる伊豆衝突帯北東縁の地殻変動 (道家涼介)

国土地理院および温泉地学研究所独自のGPS観測網のデータを解析し、伊豆半島周辺の地殻変動について検討を行いました。その結果、伊豆衝突帯北東縁部において明らかとなった剪断変形帯の存在について報告します。

(3) 富士川河口断層帯～糸魚川-静岡構造線横断地下構造探査(2012FIST)報告：沼久保断層ならびに大宮断層による撓曲構造 (小田原啓)

2012年4月に実施された富士川河口断層帯から糸魚川-静岡構造線の西側にかけての深部地下構造探査および浅部地殻構造探査に併せて、その解釈に資するために富士宮市星山丘陵周辺において地表地質調査を行った結果を報告します。

(4) 三浦市における関東地震の隆起量と地震サイクルに関する地形地質研究 (金 幸隆)

三浦半島南部において、海成段丘の分類と掘削調査に基づく堆積物の分析を行いました。先行研究では1703年元禄関東地震と1923年大正関東地震に伴う隆起面(海成段丘面)の存在が知られていましたが、今回の我々の研究ではこれらの地震の隆起面よりも古い時代の隆起面を認定することに成功しました。

(5) 箱根温泉の泉質 (菊川城司)

箱根温泉の源泉250カ所以上で実施した採水調査結果から泉質分布図を作成しましたので紹介します。